廿編上

源氏胡蝶

巻物

仮梅 東籬画

上

松濤文庫

吾一友人重工南嶺先生ゟ風雨と長閑の三幅對を請たゞゝ先生長閑の趣向ゟ困て蝶の両図のことを重けり這い蝶の舞をのう野中の日景この巻

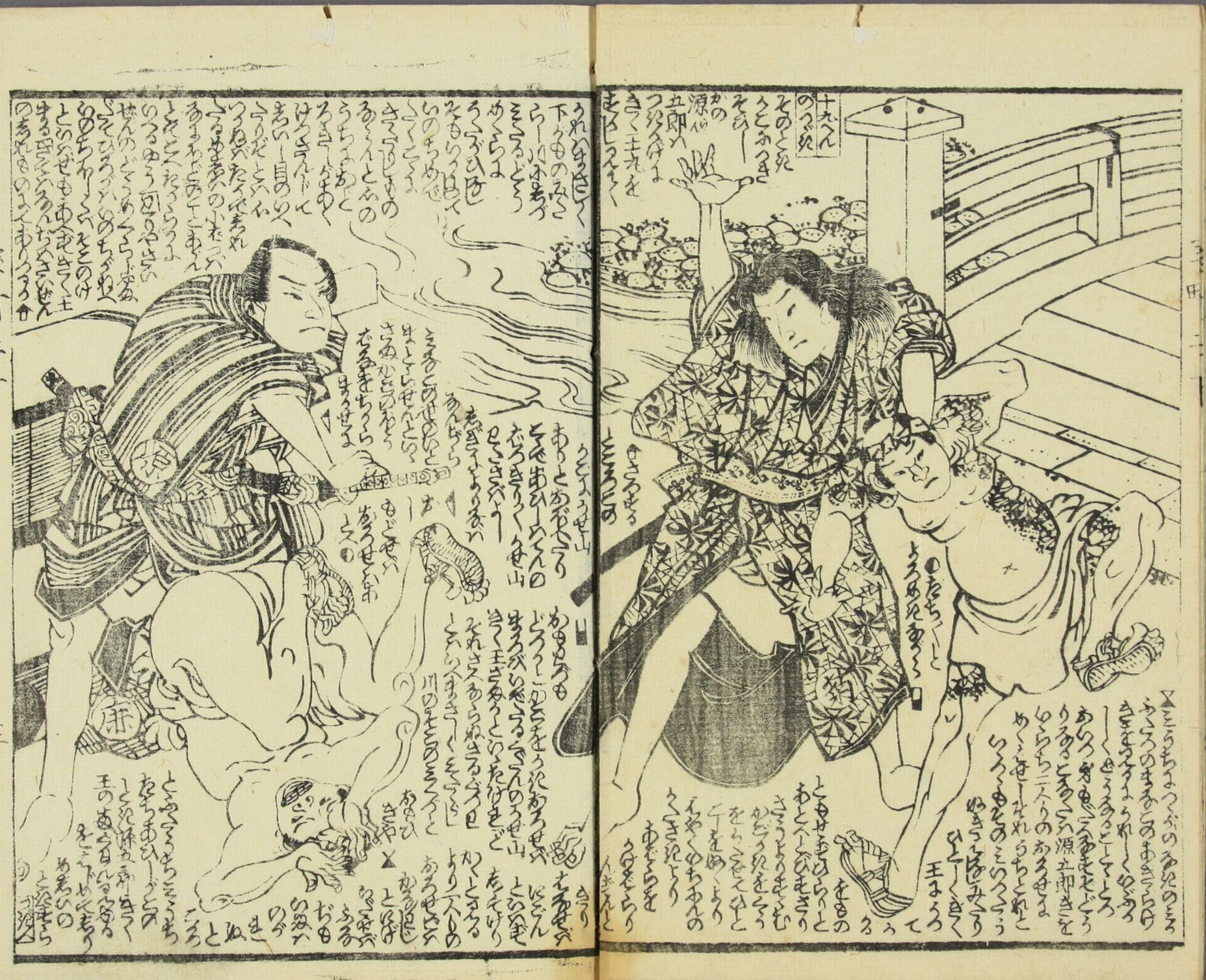
ト古人の吟ゟうとゞ合巻も是ゟ等しく風雨の如き異様るゝい重柄も眼前の糖るを以て看官さゝ倦たるまゝと余るを此史い長閑ゟる源氏の重様を加えてよと拵主ゟ注文ゟゞ名ゞゝり二世の諧慧楼平和の趣向ゟ困ゞゝぶりんの古人の両図ゟ源氏めゝゝる重組をゝ作ゝゝを胡蝶の巻の次編とゝゝゝ

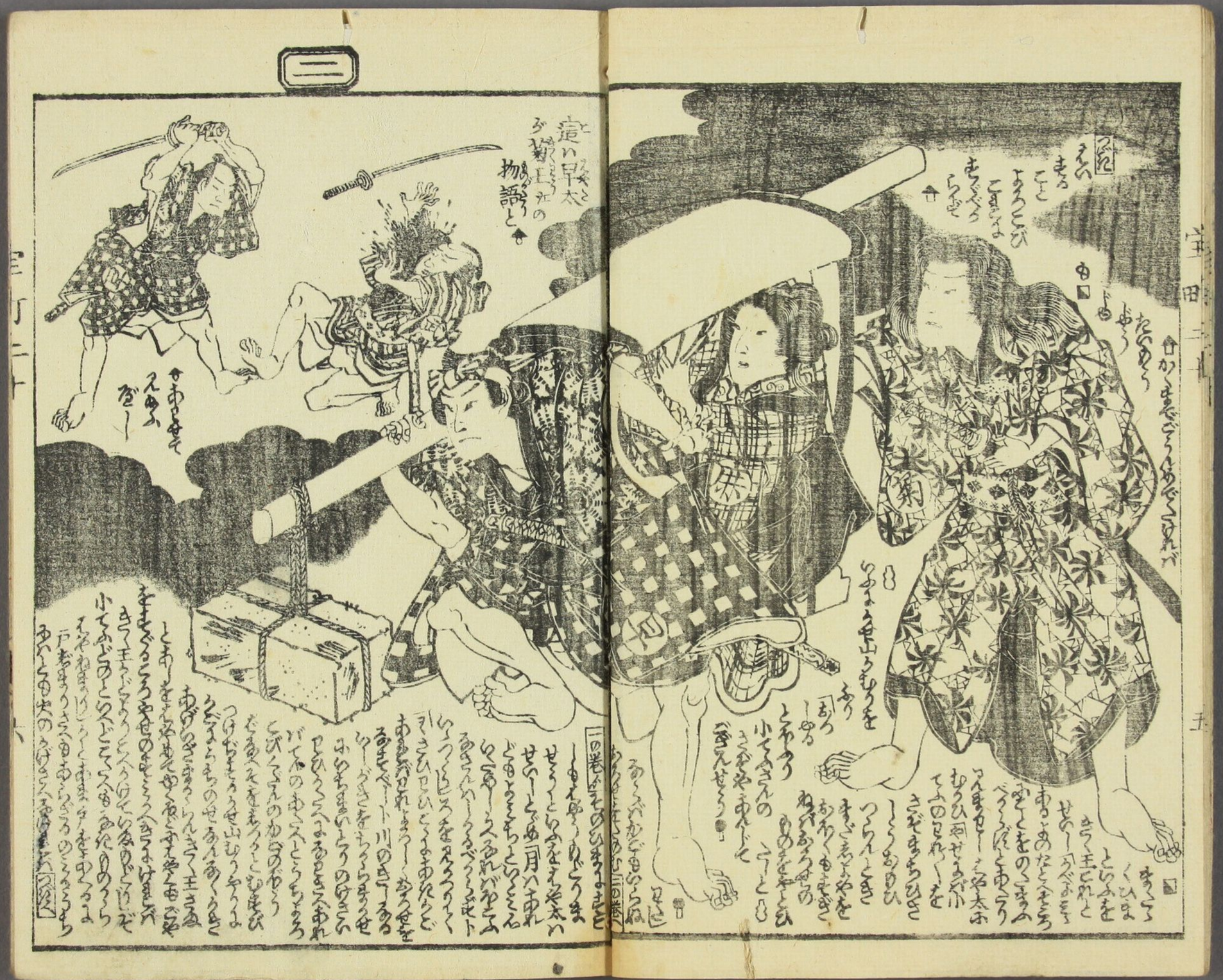
明治三午仲春

柳亭種彦記

麻山名を更て
掉麻
賊主丹波助太郎
本名東山民部

阿濃菊王丸
胡蝶
實の名へ
花園姫




二
宝田三十
宝田三十
菊

柳蔭月朝妻 十編 山々亭有人作 大尾 桜朝楼國貞画

藪黄鶯八幡不知 十編 山々亭有人作 大尾 錦朝楼芳虎画

阿玉ケ池擬月形 五編 爲永春水作 大尾 梅堂國政画

八犬傳犬の双紙 六十 柳亭作 大尾 國政画

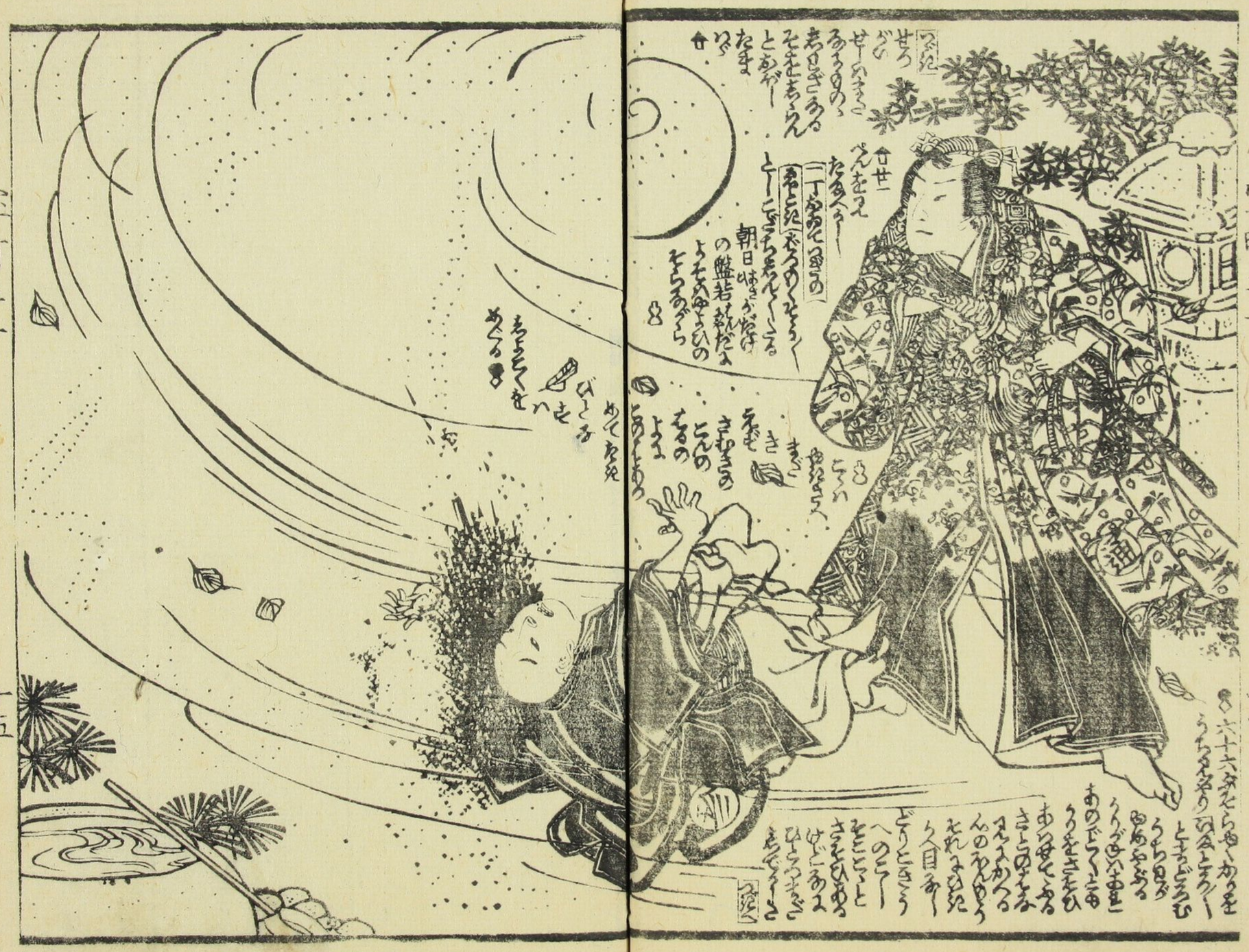
小學行儀法 全一冊

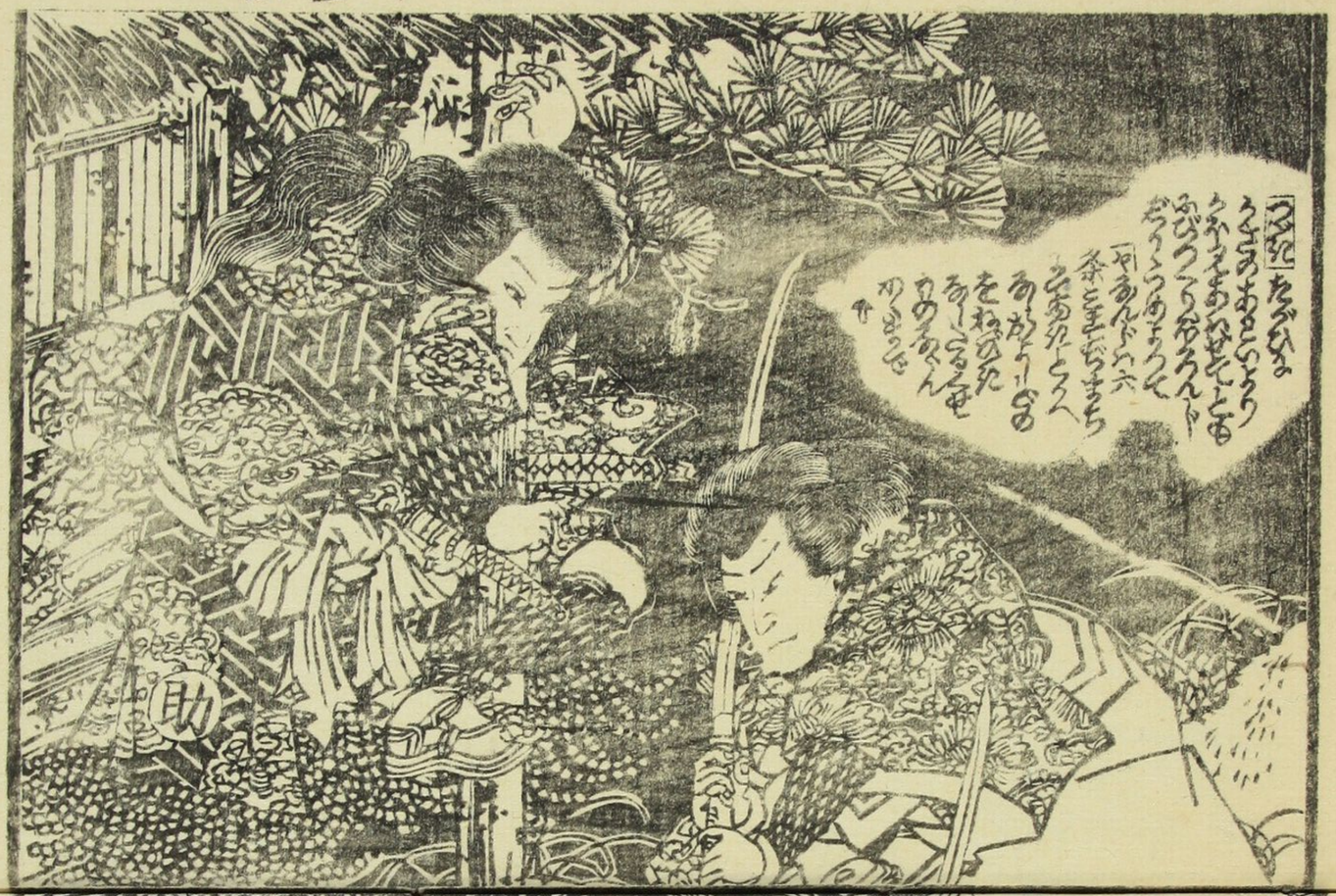
本家 實母散 さんぜんさんご 中橋南傳馬町東側 千葉堂善補製
一切の明薬

むすめ源氏
松の子
ひとえ
ものがたり

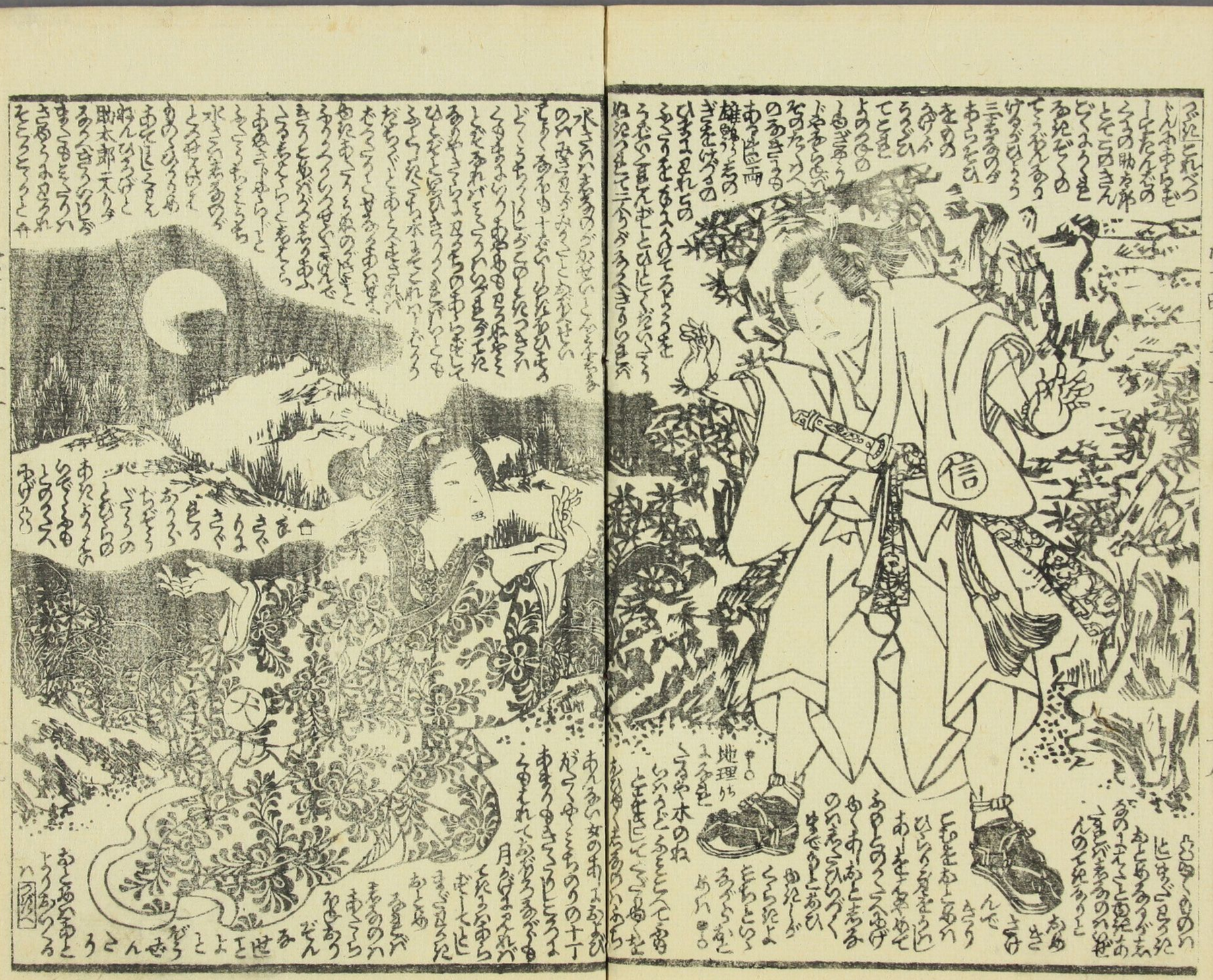
小ふじ
元年
きき
下

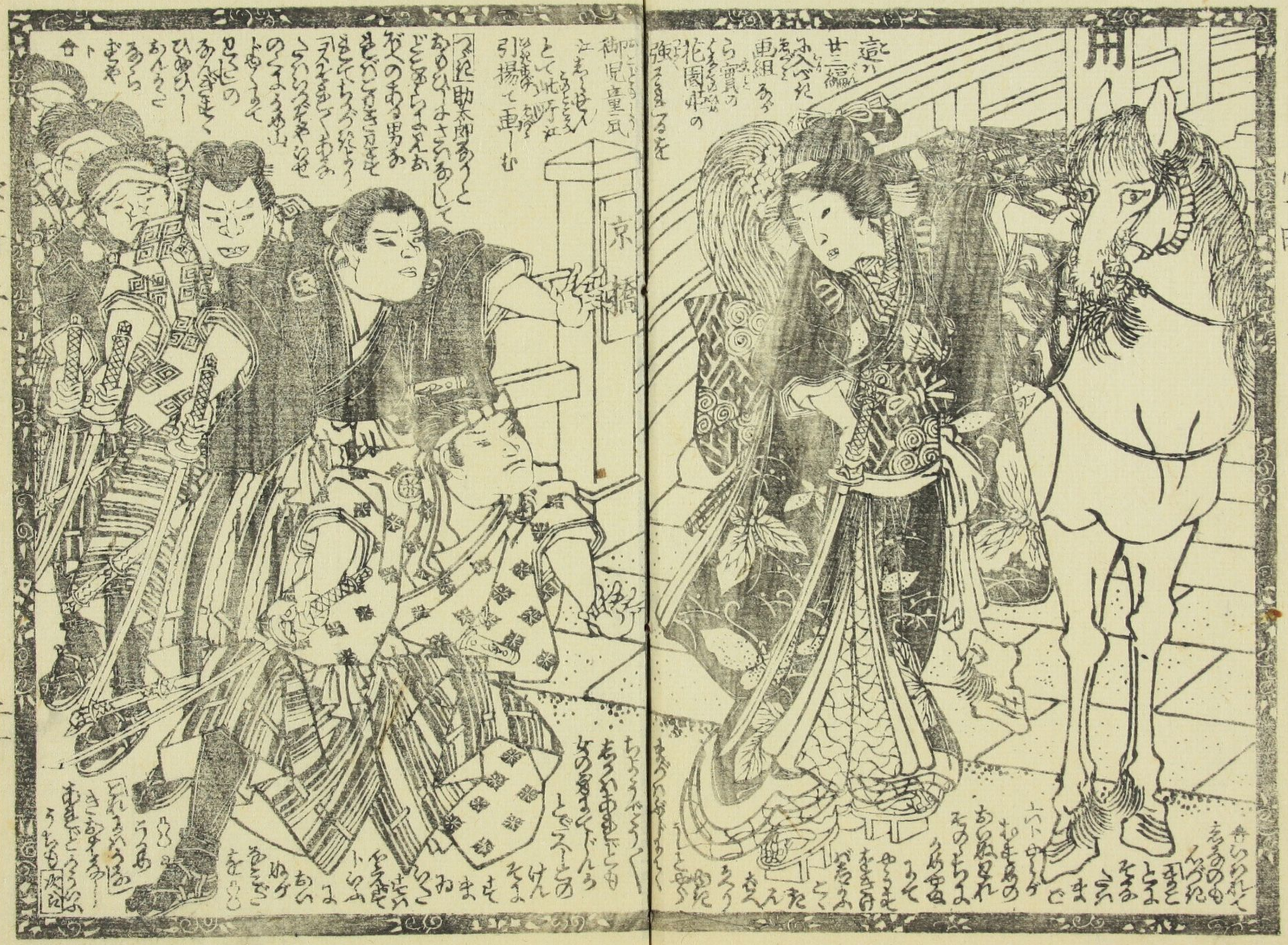
三
三のまがり
さどうのようさいのこと
たうをびをとーあけのようとうやと
あなをつけばみちうだもてを
ふるうらげて下ばとをーしへ
べつきでおいけどうろうらを
ちやどをのをーしへばのの
おとうどうあのぎこ小ふーど
ひきてくきげんをうろれ
とてをへらをーめとれい
をのびたあくと二客はあくえ
あくまどとくまへ
せあくと二客はあくえ
ふきをやくありふを
ものあんだちまとう
きゆくうとむ
べーおくふんが
をまえのうを
ちやいろあくふ
とうらまで
あらくう
とのこ
をくびちんさい
さそんびてゆの
のまーゆうと
いうさえあわ
さあ回だゆうまへ
さもらへども
あくさるれどあのまのえのーゆうを
さーあきえまうきあく
ふきえんあそれありそれば
つーとべーとうをまびとあくあを
もーまを「つあいえくらつと
あいぐと上意おうのとてを
きゆくせうとへくどもちんさへ
ひろあまのえのーゆうを
ふきえんあそれありそれば
つーとべーとうをまびとあくあを
もーまを「つあいえくらつと
あいぐと上意おうのとてを
きゆくせうとへくどもちんさへ
ひとうさえあわ
さあ回だゆうまへ
さもらへども
ちうり
ひとうさえ
とうびく
とと
せうり
ぢんを
をのを
て




助

氷
冨

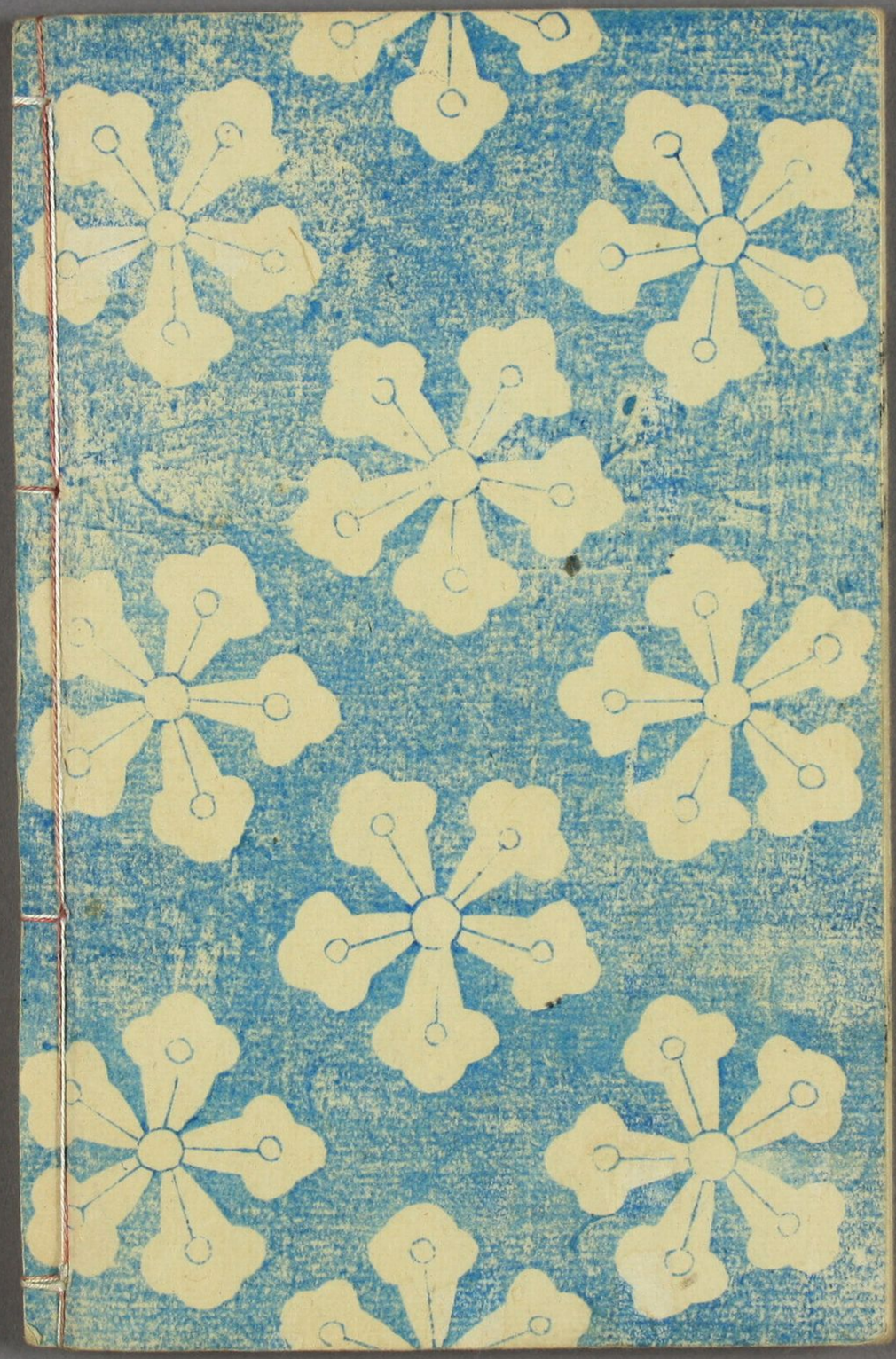

信
地理


用
京橋

地本綿繪團扇問屋

厚化粧萬年嶋田 廿編 春水作 大尾國貞画
新局九尾傳 廿編 春水作 大尾國貞画
室町源氏胡蝶卷 三十編 種彦作 大尾國貞画
筆海四國閑書 十五編 種彦作 大尾國貞画
鼠祠通夜譚 十編 種彦作 大尾國貞画
明鴉墨画姐禍襠 廿編 種彦作 大尾國貞画
童謡妙々車 三十編 種彦作 大尾國貞画
花封蓄玉章 十編 種彦作 大尾國貞画
薄倖幼日記 三十編 春水作 大尾國貞画
七郎丸葛飾譚 十五 種彦作 大尾國貞画

京橋區南傳馬町壹丁目二番地
出板人 林吉藏



室町源氏胡蝶
巻 二十番
種秀作
國貞画

小森高々女